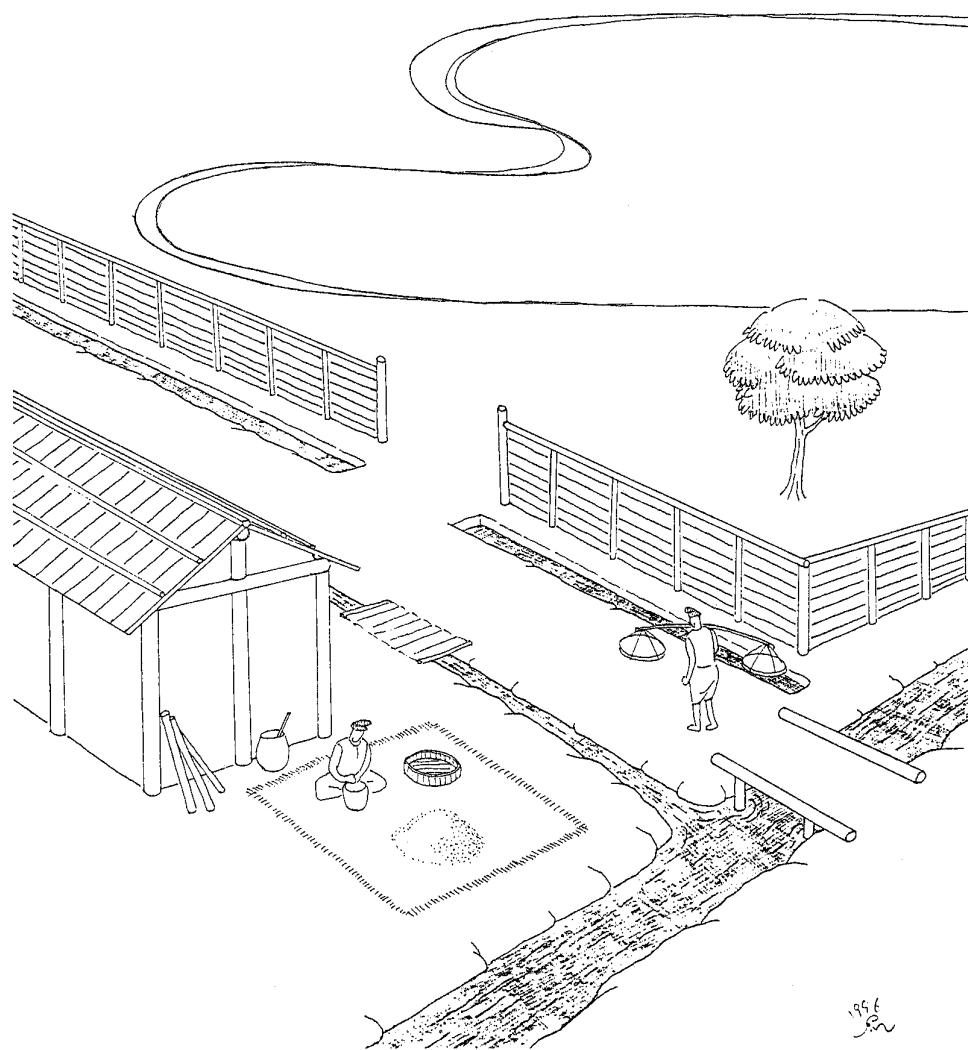


平安京右京一条三坊二町跡

発掘調査現地説明会資料



復元想像図

1996年6月23日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京一条三坊二町跡

調査地	京都市中京区西ノ京御輿岡町1-2
調査主体	(財)京都市埋蔵文化財研究所
調査期間	1996(平成8)年4月15日～調査中
調査面積	約380m ²

調査地のあらまし

当調査地は平安京跡で、平安時代の住居表示の呼び方では平安京右京一条三坊二町になります。平安京内での位置関係については(図2)のようになっています。

当時ここに住んでいた人については、史料がなく分かっていません。ところで、この場所から約200m西北にある京都府立山城高校の校内で行われた発掘調査(一条三坊九町)では、平安時代前期の貴族が営んでいた邸宅跡を発見しています。邸宅内の建物配置は、寝殿造りの原型との評価が与えられています。当調査地がその近隣に在るところから、今回の発掘調査でも同様の遺構が発見されることが期待されました。

さて、今回の調査地周辺部は、天神川が運んだ土砂によって形成された扇状地の一角に位置しますが、京都盆地の地形は北から南へ比較的急な傾斜になっています。平安京全体では南北の距離は約5.2km、高低差は約40m(0.74%)です。当調査地は、南北に約42mほどの距離があり、北側と南側の高低差は約1.2m(2.85%)ほどあります。周辺の地形も同様です。このような地形は、京都盆地や平安京跡の傾斜に比べてかなり急であると言えます(図6)。

平安時代の遺構(図4)

溝236 調査地の北端で発見した東西方向の溝です。平安時代前期から近世まで続いており、その規模も、幅が1.1m→1.6m→0.6mと時期によって少しずつ変化しています。溝断面の形はU字状の形から浅い皿状に変化しています。

溝96 調査地の西端で検出した南北方向の溝です。幅0.9m、深さ0.1~0.4mの規模です。溝底の形態は皿状の部分と舟底状の部分とがあります。この溝は、途中で途切れています。埋まった土層を調べると、水が流れた痕跡はないようです。

溝202 調査地の中央で発見しており、規模は幅1.1~2.4m、深さ0.4~0.6mです。溝の形は舟底状の部分は何段にもなっており、水の流れを緩める機能を持っていたようです。しかし実際には東部は崩壊しており、かなり急激に水が流れたようです。

溝353 溝202の下層で発見しています。1町(大路や小路に囲まれた約120m四方の区域)の中心に該当するところで検出しています。大きく2層に分層でき、上層は焼土が埋まっているのが特徴的です。これは隣接する建物が焼け落ちたあと、火事場の処理のため

に埋められたものと考えています。

橋脚 検出した溝236のほぼ中央北側で、地山（礫層）を掘り込んだ皿状の落込（幅2.2m）を発見し、そこには柱穴が2基あります。また、南肩でも柱穴を検出しました。落込は溝96と溝202に一致しているため、これらの一連の遺構を橋脚の遺構であると考えています。

地鎮遺構 径30cm、深さ5cm程度の小さな土壙です。土壙内には須恵器の小壺を立ててあり、その脇には小石が数個置いてありました。平安京内で典型的な祭祀遺構です。検出された位置から、敷地の平安のための土壙すなわち地鎮壙であると判断されます。また、この町の住人の敷地の境界であったことも、今までの研究成果で分かっています。

掘立柱建物 溝202の東側で方形の柱穴を検出しました。調査区の関係で検出した数は少ないですが、2棟以上の建物は確認できています。溝202の下層でも検出できています。

出土した遺物

今回の調査で出土した遺物の量は、面積に比較して多い方です。出土した遺物の大半が土師器や須恵器といった土器類で、瓦・土製品・釘・鋳物なども若干認められます。

土器類	土師器（杯・皿・碗）、須恵器（杯・皿・蓋・壺・鉢）、 黒色土器（杯）、緑釉陶器（碗・皿）、灰釉陶器（碗・皿）
瓦類	軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦
土製品	土馬、土錘
石製品	石帯
金属製品	釘、不明鉄製品
鋳物	煙水晶剥片
その他	壁土片

遺構から分かったこと

(1) 鷹司小路南側溝 溝236は当研究所で想定している条坊復元モデルとほぼ一致しています。溝の埋土から出土した遺物も平安時代のもので、こうした理由によって、平安時代の鷹司小路南側溝であると考えています。ところで平安京の道路の構造は、(図1)のようになっていると推定しています。

(2) 小径の確認 鷹司小路南側溝から南へ延びる2条の平行する溝は、『延喜式』に記載されている1町内を通る小径と考えています。その特徴と理由は次のように考えています。

① 溝96と溝202の間は、二町のほぼ中央に位置し、平行する溝から出土する遺物の時期もほぼ同じです。また、鷹司小路南側溝と交差するところには橋の橋脚を示す柱穴が見られます。

② 溝202からは、祭祀遺物と考えられている土馬や小壺などが出土しており、人通り

の多いところで行われた祭祀とよく符合します。すなわち、平行する溝部分が通路（小径）であり祭祀がそこで行われたのです。

③ 平安京内では小径と思われる遺構は数例発見されているが、橋とともに発見・確認されたのは初めての例です。

小径の例

No.	条 坊	分 類	方 向	時 期	位 置	規 模	備 考
1	右京一条三坊十六町	大路辺町	南北	平安前期	中央	3 m	土御門大路に取付 報告は平安以前の条里
2	右京二条三坊十一町	大路辺町	南北	中期初頭	中央	1.8m	途中で消滅
3	右京三条二坊十五町	大路辺町	東西	中期初頭	北六・七門境	2.1m	調査区外
4	右京三条三坊五町	大路辺町	東西	平安前期	中央に近い	2.8m	調査区外 少しずれる
5	右京六条一坊十三町	大路辺町	東西	平安前期	中央	1.9m	調査区外
6	右京六条一坊五町	大路辺町	南北	平安前期	東三・四行境	2.2m	途中で消滅
7	右京六条三坊四町	大路辺町	東西	平安前期	中央	2.5m	当初からの計画道？
8	右京八条二坊二町	大路辺町	南北	平安前期	東三・四行境	1.0m	途中で消滅
9	右京八条二坊二町	大路辺町	東西	平安前期	北四・五門境	1.0m	西鞠負小路に取付
10	右京八条二坊八町	市人町	南北	平安前期	中央	不明	調査区外

(3) 災害の様子が明らかとなった

火災 今回の調査では、焼土・炭・壁土などが小径の下層溝に沿って分布していました。これは少なくとも町の西半部で火災があり、その後始末のために焼土などを溝に埋めたことが分かりました。

水害 溝202は造成当時は、南北の傾斜を考慮して水流を弱める工夫をしていました。しかし調査地は西から東への傾斜もあったため、大量の水が流れたときに東側の岸が崩れたようで、南下するにつれて拡がっている様子がわかりました。

古代の正史や日記類などには、火事や風水害の記事がしばしば出てきますが、どの記事に該当するかは今後検討しなくてはならないでしょう。

小径の史料

『延喜式』左右京職

…略…

小路広四丈。

自垣半溝辺。各五尺五寸。垣基二尺五寸。犬行三尺。

溝広各三尺。

両溝間二丈三尺。

…略…

凡町内開小径者。大路边町二。広一丈五尺。市人町三。広一丈。自余町一。広一丈五尺。

…略…

火災の史料

日付	内容	出典
承和14年8月21日(847)	右京衛士町の民家三十余戸が焼失	続日本後紀
仁寿3年8月1日(853)	右京に失火、民家百八十余家を焼失	文徳実録
天安元年8月27日(857)	右近衛舎人町一条二坊九町に失火	文徳実録
天安3年2月5日(859)	右京に火事。民家数十家を焼失	三代実録
元慶3年8月30日(879)	右京に失火。民家十余戸が焼亡	三代実録
仁和元年12月27日(885)	右京二条に失火。二百余家が延焼	三代実録
仁和2年8月12日(886)	右京衛士の坊舎に失火。民家百余戸が延焼	三代実録

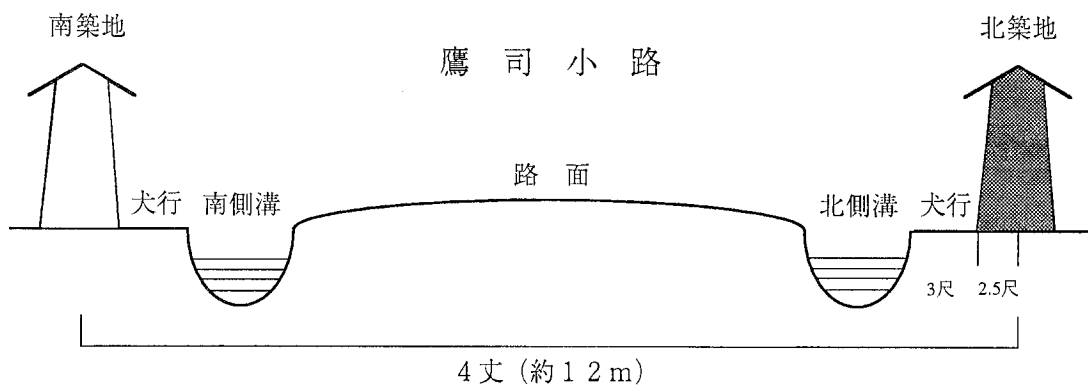
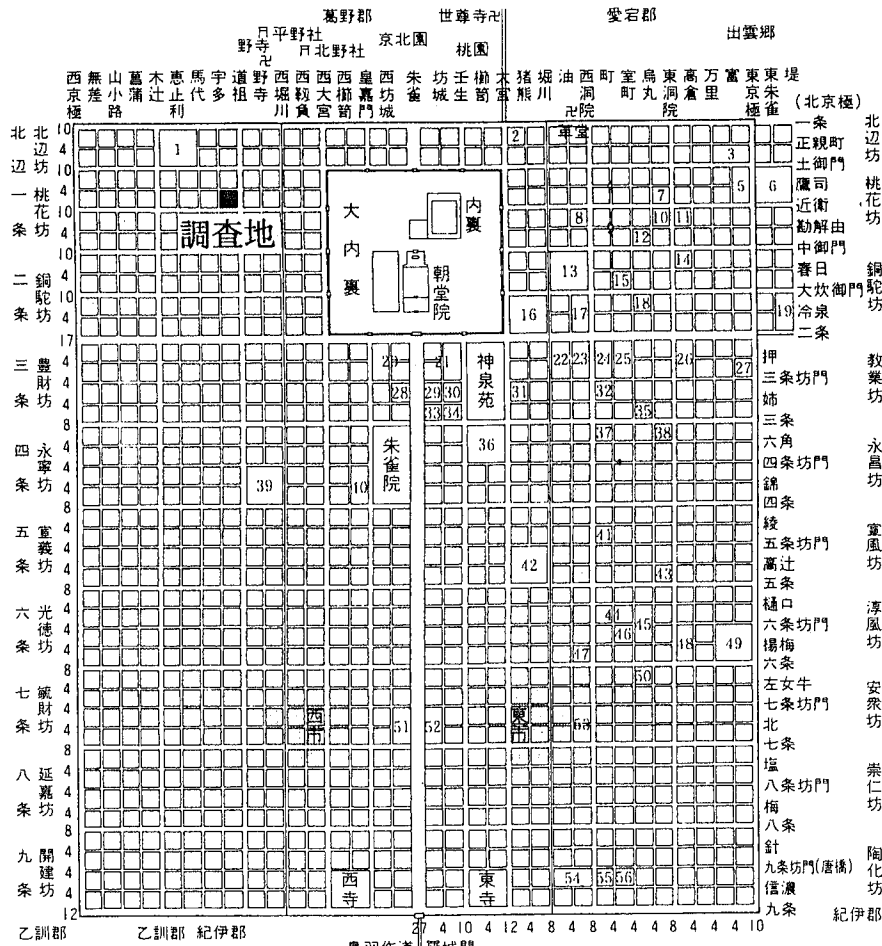
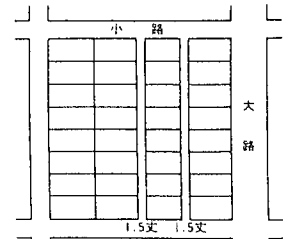


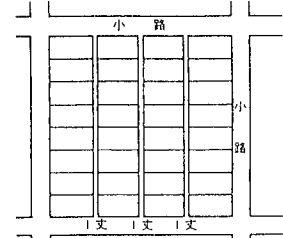
図1 鷹司小路構造模式図



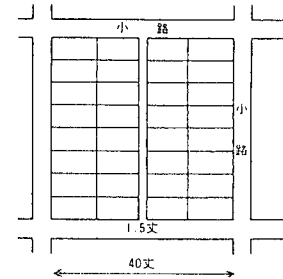
- | | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|---------|----------|
| 1 宇多院 | 11 花山院 | 21 大学寮 | 31 御子左殿 | 41 紅梅殿 | 51 西鴻臚館 |
| 2 一条院 | 12 菅原院 | 22 堀河院 | 32 高松殿 | 42 後院 | 52 東鴻臚館 |
| 3 染殿 | 13 高陽院 | 23 園院 | 33 奘学院 | 43 因幡堂 | 53 亭子院 |
| 4 左衛門府町 | 14 内記井(憑所) | 24 東三条院 | 34 勸学院 | 44 千種殿 | 54 綜芸種智院 |
| 5 上御門殿 | 15 小松殿 | 25 鴨院 | 35 三条西殿 | 45 北院 | 55 施薬院 |
| 6 法成寺 | 16 冷泉院 | 26 小二条院 | 36 後院 | 46 池亭 | 56 九条殿 |
| 7 桃徳殿 | 17 二条院 | 27 山井殿(憑所) | 37 鬼殿(憑所) | 47 長講堂 | |
| 8 左獄 | 18 小野宮第 | 28 右京職 | 38 六角堂 | 48 六条内裏 | |
| 9 修理職町 | 19 法興院 | 29 左京職 | 39 淳和院 | 49 河原院 | |
| 10 小一条院 | 20 藏倉院 | 30 弘文院 | 40 西宮 | 50 六条院 | |



四行八門の宅地割
「大路辺町」



同「市人町」



同「自余町」

0 | 25 | 50M

0 | 500 | 1000M



図2 平安京と条坊復元図 (『日本都市史入門I』より)

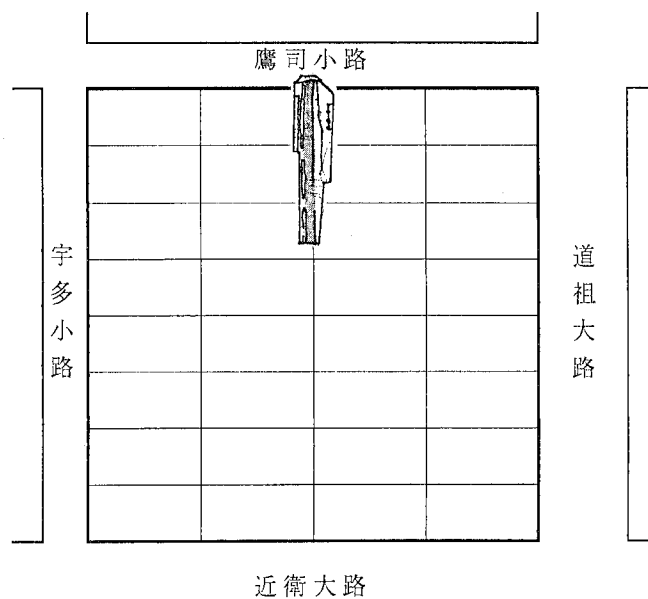


図3 調査区配置図

鷹司小路

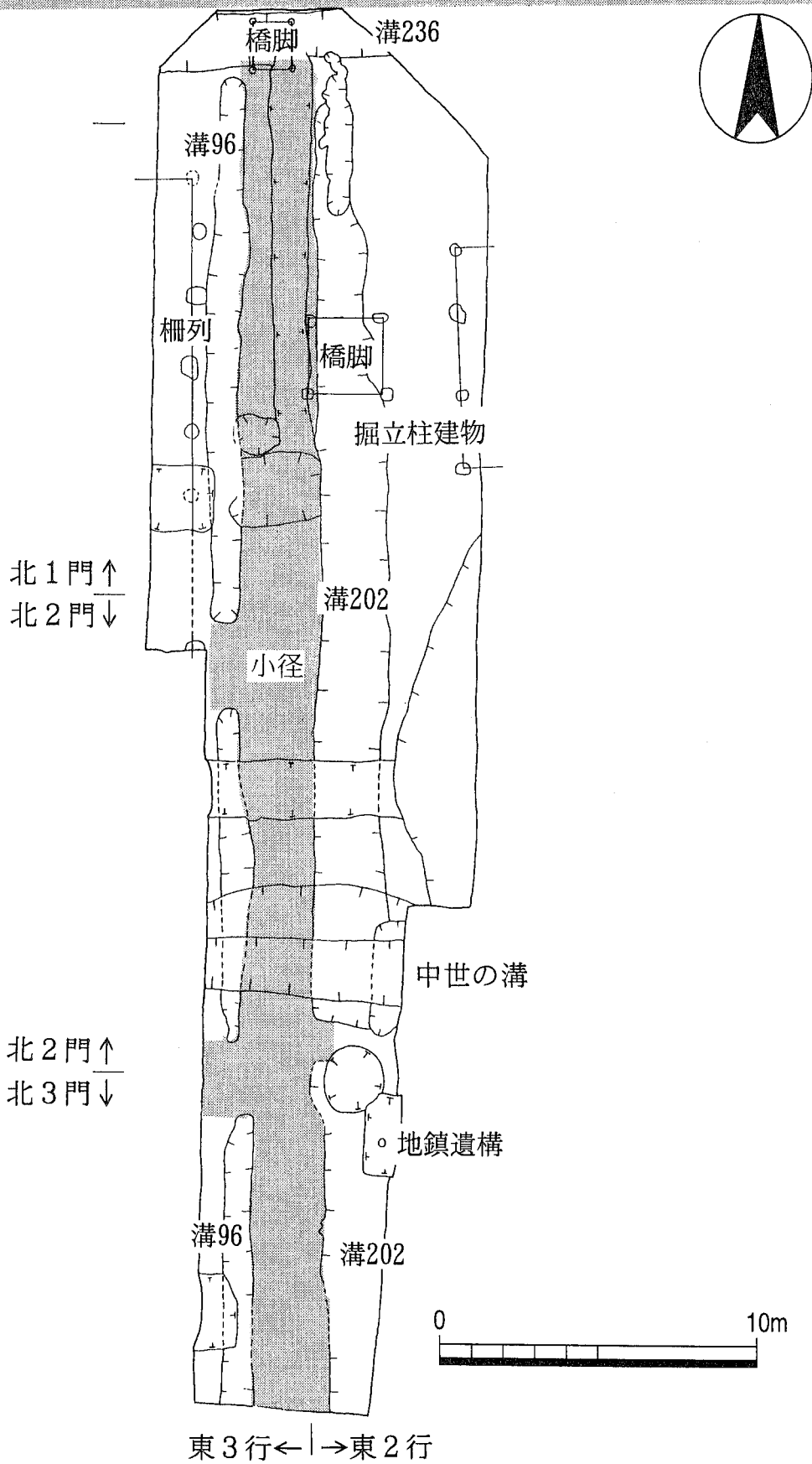


図4 遺構平面図

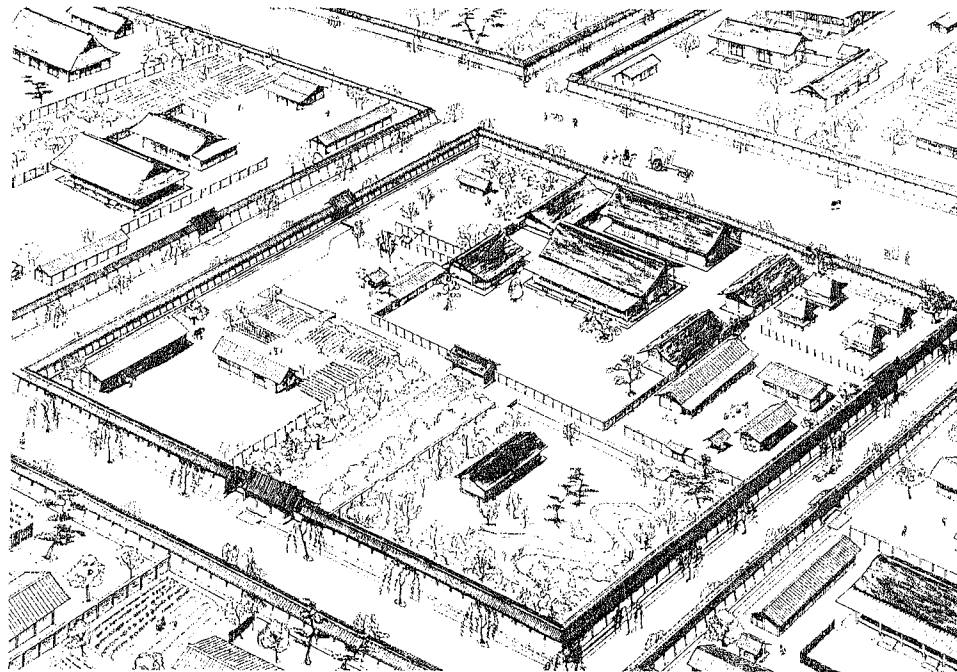


図5 右京一条三坊九町復元図（『甦る平安京展』図録より）

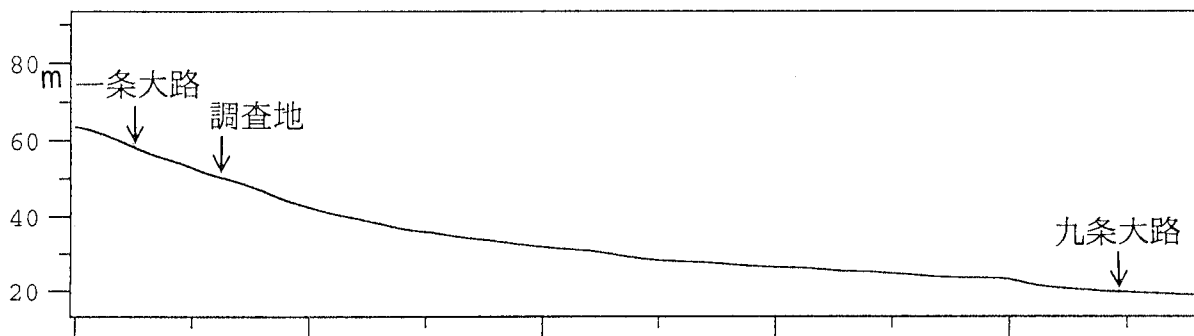


図6 平安京跡地形断面図

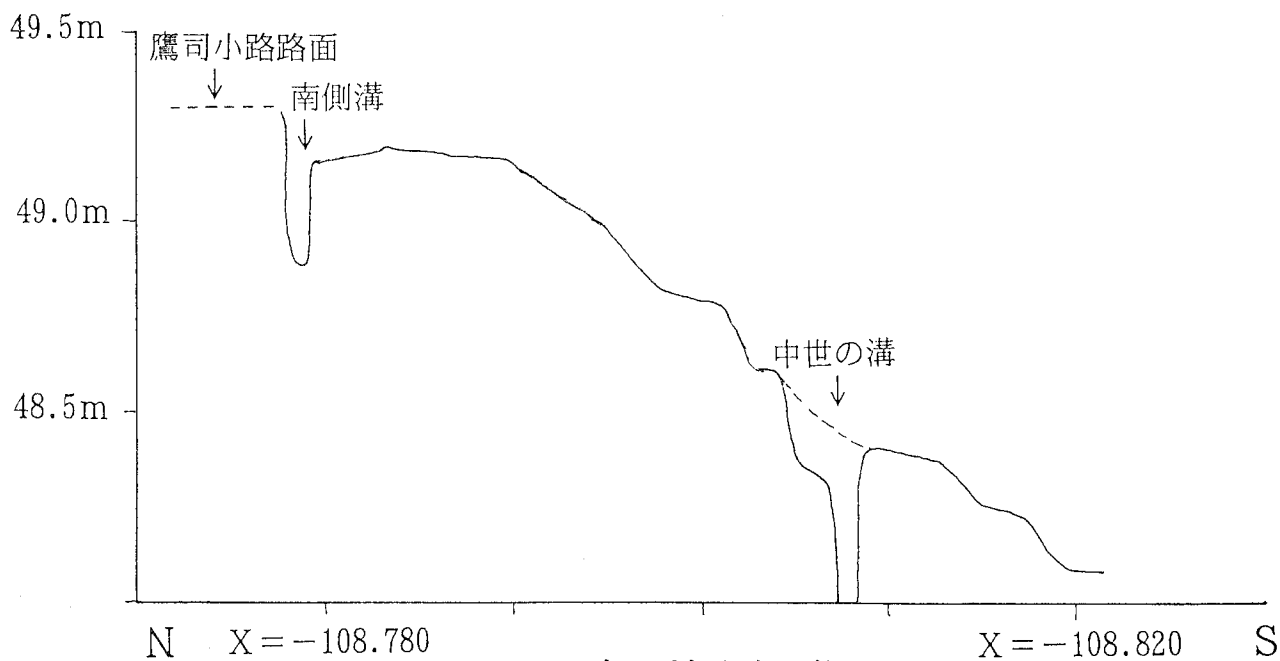
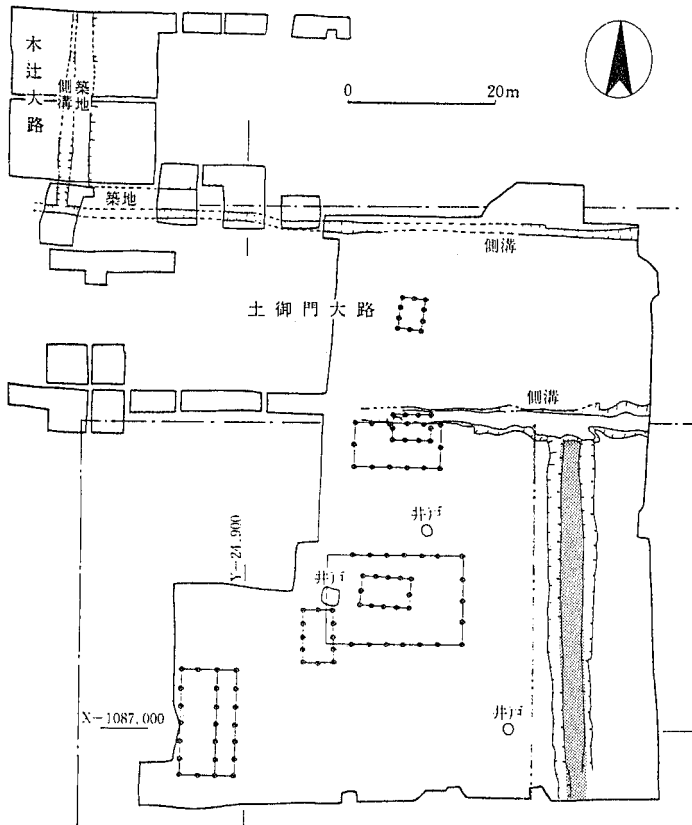
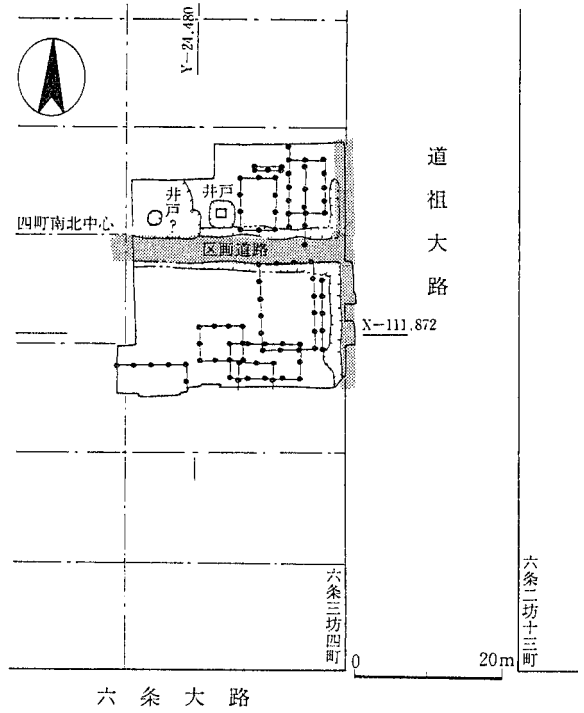


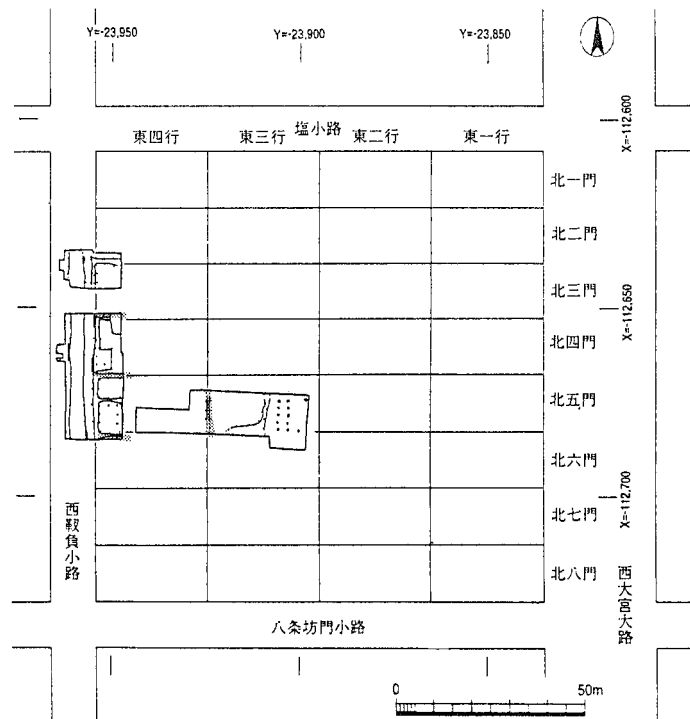
図7 調査区地形断面図



1 右京一条三坊十六町平面図



7 右京六条三坊四町平面図

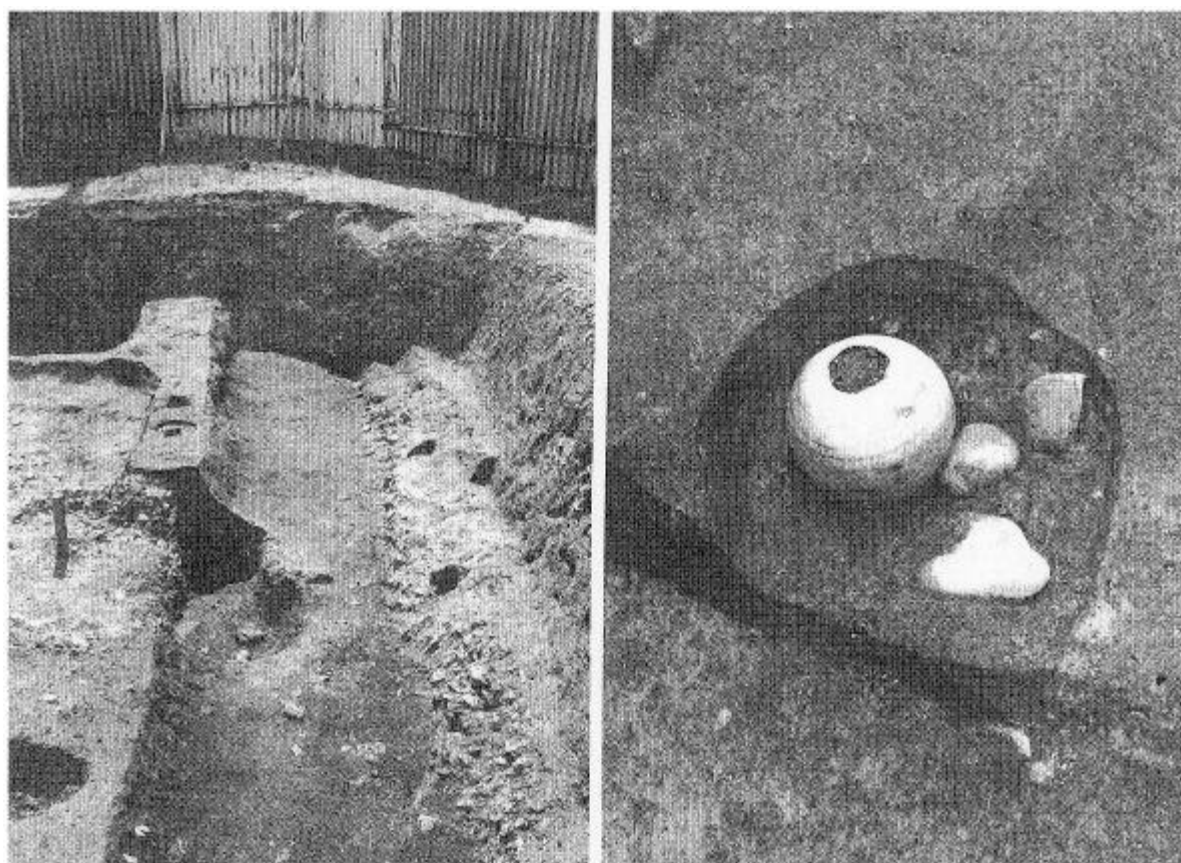


8・9 右京八条二坊二町平面図

図8 小径の調査例



調査区全景（北から）



鷹司小路南側溝と橋脚（東から） 地鎮遺構（北から）